

特集 『ふくしのまちづくり講座』①  
地域力を高めるための「人材育成事業」…それが『ふくしのまちづくり講座』

そもそも、『ふくしのまちづくり講座』とは…?

「ふくしのまちづくり講座」は、校(地)区単位で開催され、参加者が改めて地域のことを学んだり、活動者との交流を行うことにより、ボランティアへの関心を高めてもらうことを目的としています。また、これらを通して、地域で活躍していただける新たなボランティアの発掘を図る講座となっています。

平成30年度『ふくしのまちづくり講座』(門司区・小倉北区・小倉南区・若松区)の取り組みで、参加された皆さまのご意見

1. 門司区・藤松校区 『安心安全なまちづくり』

災害時の福祉救援体制づくりをテーマに2日間の研修を開催した。消防署と一緒に、地域の地図を広げ、土砂災害警戒区域場所などの情報交換やDIG体験\*をした。住民ならではの視点で自らの地域を再確認でき、防災減災の意識が高まった。2日目バスで福岡市を訪問し、市内の取り組みや、地域福祉活動について学んだ。熱心にメモをとり、活発に質問も飛び交い、充実した時間だった。防災センターでの体験コースでは、災害の怖さがわかり、貴重な研修だったとの声が聞かれた。(※DIG体験=災害図上演習体験)



2. 門司区・庄司校区 『安心安全なまちづくり』

災害時の福祉救援体制づくりとたすけあい活動(生活支援)をテーマに2日間の研修を開催した。災害時における対応や役割などを講師と共に考え、地域の防災、減災活動におおいに役立つ講義だった。2日目はバス視察で、福岡市を訪問した。他地区の生活支援に関する取り組みを学習し、お助け隊の編成などこれからの活動の方向性を見つけられたとの声も聞かれた。地域の皆が協力できることを考えるよい機会になった。



3. 小倉北区・足立校区 『人生100年時代!? ポジティブ人生を歩むために』  
～住み慣れた地域で創る心ゆたかな暮らし～

小地域福祉活動第二次計画に基づく新たな人材の発掘を目標に、地域福祉活動に関心のない方にも興味を持って参加してもらえよう、リンパマッサージなど体験型の講習も組み込んだ。ユーモアあふれる講師の話は大好評で、「笑いながら学べた。また参加したい。」「たくさんの元気と発見をもらった。」「何かやろう!やればできる!という意欲が芽生えた。」という参加者の声に手ごたえを感じた。自分たちの地域を自分たちで支えていこうと考えるきっかけになった。



4. 小倉南区・長行校区 『逃げ友をつくろう!』

災害についてのテーマで4日間研修を開催した。最初は、やはり自分の校区は大丈夫と思っている方もいたが、実際に校区の危険箇所を写真や映像で見ることで危機感も高まった。研修後の町内の会議やサロン等で受講していない方へも危険箇所などの説明をしたとのことで、校区全体の意識が高まったように感じた。今後は、連絡網の作成に取り組もうとしている。また、何かあったときに犠牲者を出さないために日頃の近所づきあい、見守りの重要性に気づくことができた研修となった。



5. 若松区・青葉台地区 『青葉台のことをもっと話そう』

福祉のまちづくりについて3日間の研修を開催した。認知症サポーター養成講座で認知症のことについて学び、助け合いの心を深め、2日目のカードワークでは、まち協会長・自治会会長を招き、青葉台の今、未来の暮らしについての課題や要望に触れ、共に考えた。3日目はふれあい交流会で幼児から年長者まで一緒に世代を超えてレクリエーションを楽しんだ。住民同士の繋がりが、支え援け合う意識を高めるなど、関わった皆にとって「福祉のこころ」を育む良い機会となった。



シリーズ福祉エッセイ「しあわせづくり、ひとづくり」②⑥

ワッハハ笑い笑顔あふれる“ふくしとまちづくり”



株式会社まちづくり計画研究所  
代表取締役 **今泉 重敏** さん

●まちづくりの2・6・2の法則

地域によって多少差はあるが、私の経験から言えば、まちづくりには「2・6・2の法則」があるようだ。地域課題解決のため、まちづくりアクションを地元住民に提案すると、賛成・反対はそれぞれ2割。残りの6割は、最初ウンともスンとも言わず、しばらくして、勢い付いた方に心傾き「私も最初からそう思っていました」と言う都合の良い人達。あなたはどのタイプ?

地域課題は、人間に例えると病気のようなもの。病気を治療せず放置すれば、人の命を奪うことも。地域課題も同じ。課題が小さなときに、私達大人が行動すれば、子や孫は苦しまずに済む。「私がいなくても、誰か他の人がやってくれる」では手遅れだ。勿論、一人でやる必要はない。危機感を感じる有志で、無理をせず、取組み可能なことからスタートすれば良い。まずは小さな成功事例を創ること。これが自信となり、次のステップへつながる。

「仕事が忙しく、地域のためにやる時間は無い」と言う人がいる。本当にそうだろうか?私の周囲にも多忙な人は大勢いる。しかし彼らに共通しているのは、忙しい人ほど時間の使い方がうまいことだ。アイデアを提案すれば、多忙な日々にも関わらず、合間を縫って行動してくれる。「自分達の地域が安全・安心になるから当然。他人事から自分事へ。」がその理

由。一方、ダラダラと無駄な時間を過ごしている人ほど多忙を理由に、会議に出てこないし、アクションも起こさない。

●笑標語で笑い笑顔のある人生を!

ある医者によれば、人間笑えば、体内からエンドルフィンが出て、プラス思考・前向きに行動するようになるらしい。そこで私は“笑”を含む笑標語を考え、まちづくりに応用している。その一部を紹介しよう。

『笑顔で介護:笑トスティ』『窓に笑顔が映る笑ウィンドウ』『笑音器・笑い飛び交う化笑室』『いくつになっても笑女隊』『笑って寒さをしのぐ笑エネ』『笑子化・幸齢化だったらいいな』『笑顔あふれる笑売人』『笑顔で盛り付け笑進料理』『笑顔が絶えない人の笑来像⇔笑顔が無い人の消来像』『ワッハハハ三回笑って万歳三笑』『笑顔で生涯楽しく学ぶ笑涯楽習』『笑耐呑んで笑い止まらず…一笑ビン』 笑いや笑顔に満ちた人生はとても楽しいもの。あなたも笑標語を考え、笑い笑顔に満ちた時間(笑タイム)を楽しんでみては。

研修レポート TRAINING REPORTS



「まちづくりセミナー」

6月1日~29日の毎週土曜日、全5回「高めよう!自分の魅力!まちの魅力!」~まちづくりセミナーを開講しました。毎年行っている北九州市民カレッジとの「まちづくり・人材育成コース」の一環として、延べ102人の出席がありました。

今回のテーマはまちづくり。人生豊かに過ごすには、心も身体も健康に過ごすことが大切です。その為には人と人とのつながりが不可欠であり、心地良いコミュニケーションを育みながら、小さな思いやりの積み重ねでも人もまちも成長していくのだと思います。この講座は、まず自分の心と向き合いながら自身を高め、まちづくりの取組みについて小さなヒントを学び、実行に向けて心の種を植え、育てていく講座でした。

参加者からは、「笑顔で前向きに物事を考えていきたい」「視点を変える事の大切さ、地域で生きる喜びを教えてくださいました」などの声もあり、この心の種を自分自身で育て、地域で花が開く事を願っています。